

土砂災害を未然に防ぐ
砂防堰堤
さぼうえんてい

豪雨や地震によって斜面崩壊や河床に堆積した土砂が再移動し、土石流となって河川を埋め洪水氾濫を引き起こしたり、住宅や道路を壊すなど、下流に大きな被害をもたらします。砂防堰堤はこうした土石流による災害を防ぐために荒廃した溪流に建設されます。



ひなた
日向砂防堰堤

豊かな美しい山をつくる
山腹工
さんぷくこう

崩壊した山腹をそのまま放置しておく、土砂流出が活発化し、ますます崩壊が拡大するという悪循環が起きてしまいます。山腹工は、荒れた山肌に土留め壁や編柵・水路などをつくって斜面を安定させ、草木を植えて裸地を緑で覆い、降雨等による土砂災害を防ぐとともに、緑に満ちた森林を創出していきます。



おおなぎ
大薙山腹工

安全な流れをつくる
床固工群
とこがためこうぐん

曲がりくねった川を真っ直ぐにして、川の流れを安定させ、大雨の時に川があふれないようにします。床固工（とこがためこう）と護岸工（ごあんこう）が一体となって川岸や川底が削られるのを防ぎます。また、魚の生息域を保つために魚の通り道となる魚道（ぎょどう）をもうけたり、人々が川に親しめるような安らぎの空間を造っています。



だいやがわ
大谷川床固工群

令和6年度
事業概要

日光砂防
事務所



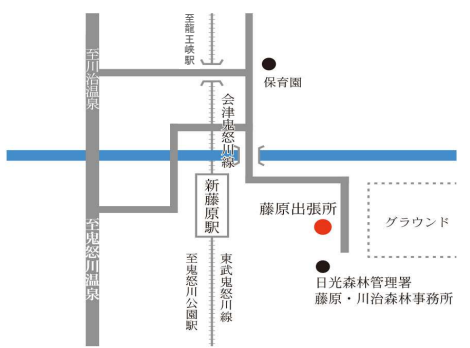
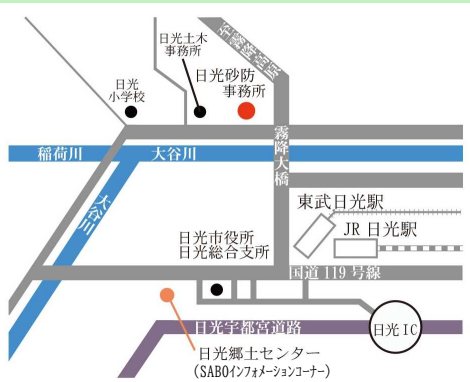
国土交通省
関東地方整備局



国土交通省 関東地方整備局
日光砂防事務所
〒321-1414 栃木県日光市萩垣面2390
TEL 0288-54-1191(代) FAX 0288-53-1268



藤原出張所
〒321-2521 栃木県日光市藤原330-2
TEL 0288-77-0409 FAX 0288-76-8668



令和6年度 鬼怒川流域の直轄砂防事業について

- ◆鬼怒川流域は、急峻な地形と日光火山群からなる脆弱な地質、山岳地帯の厳しい気象条件により数多くの崩壊地を伴って著しく荒廃しています。
- ◆古くから土砂災害が繰り返され、今でも多くの土砂が流出しており、土砂災害が発生するおそれがあります。
- ◆土砂災害から住民の生命と財産を守り、観光資源等を保全するため、土砂流出状況及び施設の整備状況などを踏まえて効果的に砂防事業を進めます。

令和6年度 事業箇所

堰堤工	10
床固工	2
山腹工	5
計	17

令和6年度 予算概要

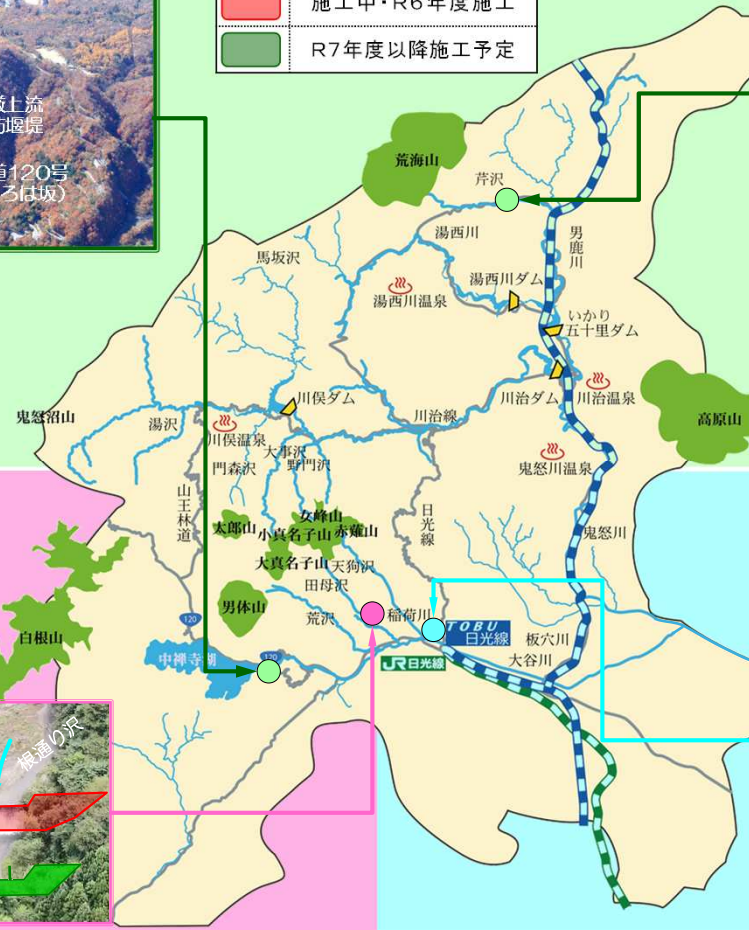
(単位：百万円)

	令和6年度関連	令和5年度関連
当初予算	3,295 (対前年度比 1.00)	3,295
補正予算	736 (対前年度比 0.75)	985
計	4,031 (対前年度比 0.94)	4,280

日光市街地と世界遺産を土砂災害から保全



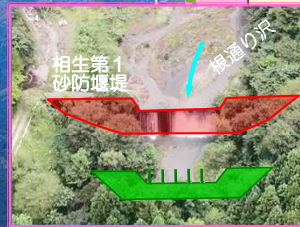
凡 例	
	施工済箇所
	施工中・R6年度施工
	R7年度以降施工予定



芹沢流域は荒廃が著しく、平成27年9月豪雨で生産された土砂や流木が溪流に堆積し、今後、芹沢の異常な河床上昇が懸念されます。砂防堰堤を整備し、土砂流出と異常な河床変動を抑制とすることで芹沢沿川の集落や市道芹沢線を土砂災害から守ります。

過去には土砂流出により橋梁が流出(明治35)したり、台風による発電施設の被害(平成10年)が発生しました。砂防堰堤などの整備により、土砂災害から地域住民の生命・財産、重要交通網、産業施設などを守ります。

土砂・洪水氾濫被害の防止・軽減



明治35年の足尾台風により七里地区で土砂災害が発生しました。砂防堰堤の整備などにより、下流の日光市街、重要交通網である国道、世界遺産を土砂災害から守ります。

土砂災害から「いのち」と「くらし」を守る



日光市所野地区は土砂災害警戒区域が多数分布しており、生活道路や多くの人家がある地域です。砂防堰堤を整備することにより、地域住民の生命及び財産を土砂災害から守ります。



@ktr_nikkosabo

<https://www.ktr.mlit.go.jp/nikko/>